

五色沼自然探勝路モニタリング報告

【目的】

五色沼自然探勝路中の4湖沼（青沼・るり沼・弁天沼・毘沙門沼）における通景線の確保状況を確認するとともに、同探勝路路傍の自然変化（外来植物・希少植物等の生育・分布状況）および探勝路の利用状況などを定期的に観察報告し、同探勝路の利用および保全整備に資する。

【概要】

（1）実施期日

第1回	平成25年6月	24日	晴れ/曇り（通景線および路傍植生の観察等）
第2回	平成25年7月	22日	曇り（通景線および路傍植生の観察等）
第3回	平成25年8月	26日	晴れ（通景線および路傍植生の観察等）
第4回	平成25年9月	26日	晴れ/曇り（通景線および路傍植生の観察等）
第5回	平成25年10月	28日	曇り（通景線および路傍植生の観察等）

（2）調査者

立花千秋、鈴木正代、伊藤延廣（裏磐梯エコツアーリズム協会会員）

【結果】

（1）通景線の確保状況

- ・ 第1回目の調査は“ヨシの倒伏作業前”だったが、青沼では視点場が高いためある程度通景線は確保できていた。ただし、ヨシの高さは1.0～1.5mまでに達していた。一方、るり沼の通景線は確保されていなかった。このほか対象となる弁天沼、毘沙門沼は、ヨシの倒伏作業は実施していないので2.0m近くまで伸びていた。
- ・ 第2回目以降は、ヨシの倒伏作業後に行ったので概ね通景線は確保されていた。
- ・ 特に青沼（地点3）では、視点場（ベンチ設置個所）が沼の水面から6～7m高い位置にあり通常でも通景線はある程度確保されているが、ヨシの倒伏作業（実施）により視界が開け、沼が観察しやすくなっている。
- ・ るり沼（地点4）では視点場が水面に近く、恒常的に通景線は確保しにくい。ヨシの倒伏作業により一応通景線は確保されているが、ヨシ原の沖側にヤナギの繁茂が残りやや視界を阻害している。
- ・ 弁天沼（地点6）では展望デッキが視点場となっているため、通景線は確保されているといえるが、展望デッキに上がらなければヨシに遮られて視界はまったく得られない。また展望デッキ前のヨシは数十メートル沖まで繁茂している。

- ・ 毘沙門沼高台（地点 11）でも沼の水面からは数十メートル高く、初年度に行われた作業（ヨシの刈り取り・障害木の除去）により通景線は確保されている。高台左側（白布山側）のススキも、刈り取りが行われていて視界は広い。
- (2) 外来植物の生育状況
- ・ オオハンゴンソウ（地点 10・11・12 およびその周辺）：毎年夏の一斉駆除活動の成果が表れており、毘沙門沼付近のものはかなり減少しているように見える。しかし、駆除後しばらくで路傍にそのロゼットが顔を見せている。毘沙門沼以外では、柳沼、弁天沼付近（地点 5）の路傍にも散見されたが、その多くが駆除され減少している。
 - ・ キショウブ（地点 1 および 2）：柳沼北岸および北西岸に、人為的に植栽されたと思われる形で見られる。また、この場所ではヒオウギアヤメ、ミクリなどと混生している。
 - ・ マルバハッカ（地点 2）：キショウブ同様、柳沼北西岸に人為的に植栽されたような形で生育していたが、駆除されたような痕跡があり減少している。このほか、毘沙門沼畔（地点 13）にもヨシの根元に生育している。これは人為的なものか否かは判然としない。
 - ・ コカナダモ（地点 1 付近）：昨年、柳沼北岸の水中に繁茂しているのを確認したが、今夏以降は減少している。
- (3) 希少植物の生育状況
- ・ ミクリ（地点 1 および 2）：柳沼北岸および北西岸に、外来種（キショウブ・マルバハッカ）と混生している。
 - ・ ツバメオモト（地点は表示せず）：前年と同様のエリアに、三十数株生育しているのを確認した。開花、結実ともに確認できている。
 - ・ オオアカバナ（地点は表示せず）：前年と同様のエリアに、ヨシとの混生状態で数株生育しているのを確認したが、今年 10 月には同エリアにコーンフリーが大量に繁茂しオオアカバナは確認できなかった。
 - ・ トキシウ（地点は表示せず）：ヨシの根元に 1 株だけ開花を確認した。
 - ・ ヒロハツリバナ：毘沙門沼畔で確認した。
 - ・ ヒメイチゲ（地点は表示せず）：今年は開花時期を逸したためか、一度も確認できなかった。
- (4) 木道・ぬかるみなどの歩道整備箇所
- ・ 歩道上のぬかるみは、時期・天候などによって発生したり消滅したりを繰り返しているため、恒常的にぬかるんでいる特定の場所を除いては問題にはならない。
 - ・ 先に記した特定の場所（弁天沼展望デッキ前《地点 6》の木道の西端部と次の弁天沼・竜沼間の休憩場所《地点 8：“流れ”のわきにベンチがある》の西側にある木道の西端部）であり、この 2 箇所は程度の差こそあれいつもぬかっていたが、今年

はそれぞれに対策（水抜き溝を掘る）が施され改善されている。

- ・ このほか従来報告されていた“歩道外への踏み込み跡”は、路傍の植物丈が高くなると見つけにくくなり、最近踏み込んだような痕跡は見当たらない。

(5) その他

- ・ アカマツの立ち枯れ（地点7）：弁天沼南岸の休憩場所（ベンチ設置あり）の前に、立ち枯れたアカマツ6本が残されている。
- ・ 竜沼、深泥沼、赤沼は、陸域（歩道と沼の間）の植生により、通景線が阻害され始めている。特に竜沼は、探勝路の利用が多い夏季には、ほとんど沼は視認できない。
- ・ 深泥沼畔の倒れたベンチは、修復されている。

【考 察】

(1) 通景線確保

- ・ 通景線確保の対象となった4湖沼（青沼・るり沼・弁天沼・毘沙門沼）は、整備作業（ヨシの倒伏・刈り取り等）の結果いずれも良好な視界を確保されているが、倒伏作業後にもところどころにヨシやヤナギが残っている。もう少し丁寧な作業が望まれる。特にるり沼では、舟などを使った水上からの整備作業が必要と思われる。
- ・ 弁天沼は、展望デッキがあるので整備作業は行われていない。そのためヨシは伸び放題に伸び、展望デッキに登らなければ眺望（沼と吾妻山遠望）は得られない。同時に、展望デッキ前のヨシ原は沖に向かって広がりを見せ、すでに弁天沼そのものも遠景としてしか見られなくなっている。なんらかの対策を検討する必要があるのではないか。
- ・ 上記4つの沼に限らず竜沼、深泥沼、赤沼などでは、ヨシ以外の陸域の植生によって視界が阻害されているケースが目立つ。その阻害要因の多くがアカマツやイタヤカエデなどの高木の枝であり、クワノキやヤナギなどの中低木である。
- ・ 識者によれば、これら陸域の植物などは“手つかずで残さなければならないもの”とは言えないとのこと、その一部の除去等も含めて探勝路全体の景観の確保について検討する必要があるように思われる。

(2) 特定外来植物

- ・ オオハンゴンソウ：毘沙門沼周辺に多く点在し繁茂の勢いは強いが、毎年8月に行われる一斉駆除活動および駆除認定団体による駆除（随時）の効果が現れている。特に毘沙門沼近傍以外に点在していたものは、その個体数を減らしている。今後もこうした駆除活動を継続し、少しでも減少させていければ良いものと思われる。
- ・ 我々もこのモニタリング調査の都度、見つければ駆除している。
- ・ 特定外来植物には指定されていないが、キショウブ、マルバハッカなどの外来種もあまり広がらないうちに駆除したほうが良いのではないか。

(3) 希少植物

- ・ 下記の数種についてその生育状況を観察している。
- ・ ツバメオモト：当初から継続観察している個体群（30 数株）は、探勝路から少し奥まったところに生育しているため、盗掘等にはあっていない。
- ・ ヒメイチゲ：個体が小さく気がつきにくいこともあってか、盗掘等にはあっていない。
- ・ トキソウ：繁茂するヨシの根元に 1 株だけ残っていたが、開花期以外は目立たないので盗掘などにはあっていない。
- ・ ヒロハノツリバナ：探勝路傍に生育しているが、木本であることから気がつかれていないのか？傷められることもなく生育している。
- ・ オオアカバナ：背の高いヨシの茂みに混生しているため傷められてはいないが、ヨシとの混生という点がその成長にどのような影響を与えているのか気になる場所である。また秋には、同エリアにコーンフリーの群生が見られ、非常な違和感を覚えた。

(4) 歩道整備箇所

- ・ 探勝路全般を見たとき、整備状況はかなり良くなっているように見える。木道の敷設箇所は、雨の時などその末端部に水がたまりぬかるむことが多かったが、今年の水抜き溝が掘られていてぬかるみは減少していた。これは探勝路整備に当たる作業者の知恵によるもので、その効果は大きかった。今後も探勝路を歩く人にとってはぬかるみがないほうが歩きやすいのは当然であり、ぬかるみを避けて通ることによって探勝路の幅員が広がってしまうこと、路傍の植生が踏みつけられることには問題があるので、どの程度まで整備をするかは関係者で協議する必要がある。

(5) その他

- ・ 何度かモニタリング報告書で指摘しているが、弁天沼畔の立ち枯れたアカマツ（6 本）は処分しなくて良いのだろうか。周りに健康な立木もあり倒れた場合でも直接的な被害は少ないとは思われるが、すぐ近くにベンチも設えられていることを考えると早い時期に処分したほうが良いように思われる。

以上